

# 後継者のいる農家をターゲットにした酪農指導事例

衛生課 松本 瞳

## 【はじめに】

管内の酪農家に対する指導は、当所を含む淡路乳質改善協議会のメンバーが密に連携して実施しています（図1）。

平成25年度から、酪農生産基盤強化のため、後継者がいる農家を特に重点的に指導した結果、2農家（A、B）において顕著な経営改善効果が見られました。

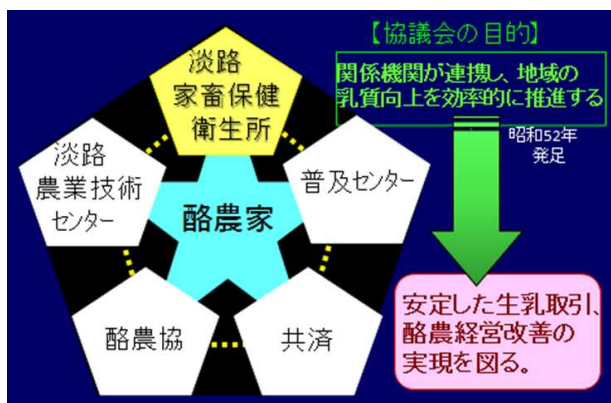


図1 淡路乳質改善協議会の指導チーム

## 【指導内容】

A農家では後継者が酪農未経験であったため飼養管理技術の習得、B農家では慢性乳房炎対策と牛舎環境のさらなる改善が必要でした。このため、給与飼料、ボディコンディションスコア（BCS）、乳房炎、繁殖成績について調査結果に基づき指導し、効果判定を実施しました（図2）。

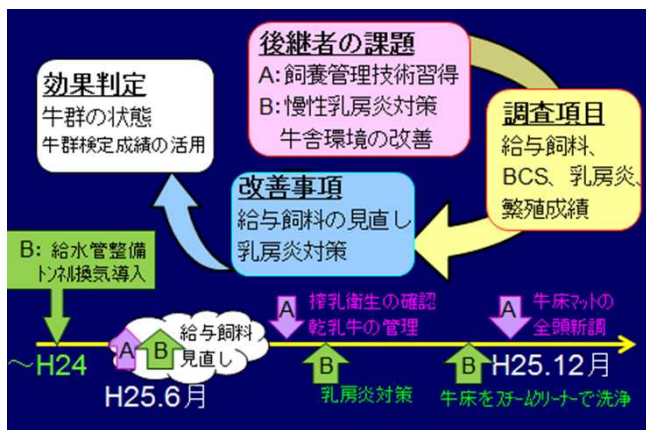


図2 A、B農家の指導内容

## 【調査結果】

(1) 給与飼料：飼料計算によりBCSが回復しにくい原因が明らかになったため、改善案を提示し、効率的なBCSの回復を図りました（図3）。

農家	指導前	指導後
A	泌乳前・中期：エネルギー不足 泌乳後・乾乳：概ね充足	群分け：3群 給与回数：3回/日
B	粗飼料：過剰 濃厚飼料：不足	粗飼料：若干減 濃厚飼料：給与量増

図3 A、B農家の飼料給与指導内容

(2) BCS：給与飼料を泌乳期毎に適正化した結果、A、B農家共に指導後のBCS適正範囲頭数が牛群の7割まで改善しました（図4、5）。

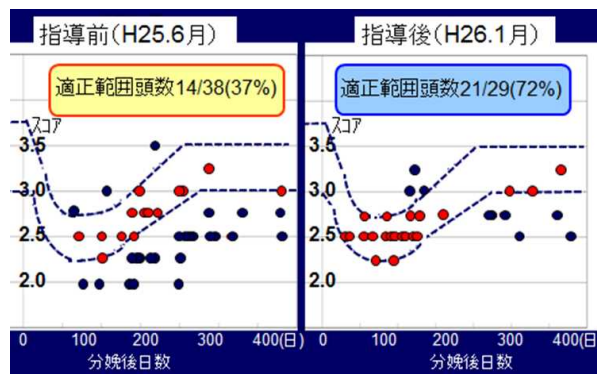


図4 A農家の指導前後のBCS比較

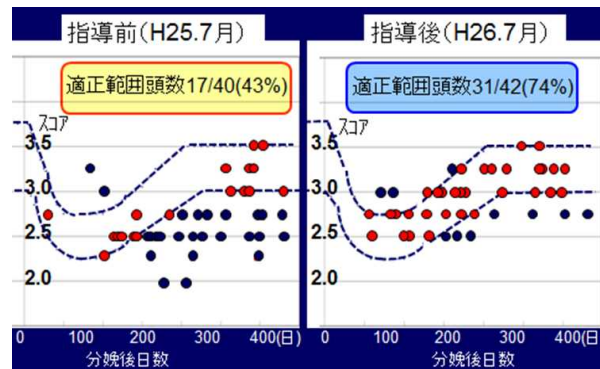


図5 B農家の指導前後のBCS比較

(3) 繁殖成績：発情を的確に見つけて人工授精しているかどうか検討するため、人工授精率を牛群検定成績より算出しました。A農家では乾乳牛管理を後継者に一任した平成26年度は向上し、B農家では給与飼料の改善と効果的なト

ンネル換気による暑熱対策により春先の成績が向上しました（図6、7）。空胎日数は、平成26年度はA、B農家いずれも短縮しました。

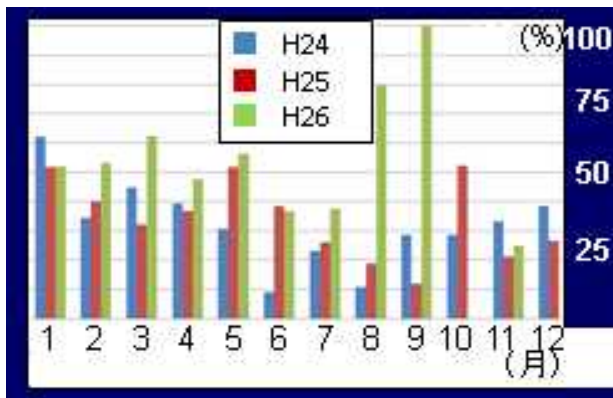


図6 A農家の人工授精率

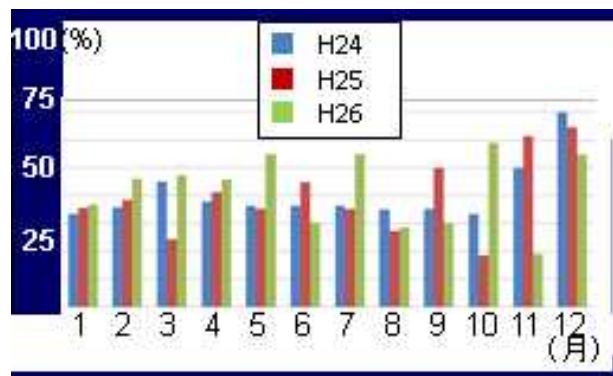


図7 B農家の人工授精率

(4) 乳房炎：細菌検査に基づき、A農家は環境性細菌、B農家では伝染性細菌による乳房炎対策が必要であったため、継続的に検査し搾乳衛生の重要性について指導しました。

(5) 1頭平均乳量：指導後は、A農家では1.1kg/日、B農家では2.7kg/日、増加しました。

【まとめ】

A農家の後継者には、牛群の泌乳期毎の適切な栄養管理が根本的に重要であることを理解させ、乳房炎対策にも着手し、牛床管理をより衛生的に実施できるよう全頭の牛床マットを新調しました。特に、乾乳牛の管理が後継者に一任できるまで習得できました。これらの総合的な取り組みの結果、廃用頭数が7頭/年に半減し

ました。

B農家では、繁殖成績を加味した乳房炎の治療方針を診療獣医師と決定したことで、慢性乳房炎対策が計画的に実施できるようになりました。さらに、牛群の栄養面の充足とトンネル換気の改善など暑熱対策を強化したことで個体乳量が増加しました。指導による経済効果の試算はA農家で9,622千円/年、B農家で7,988千円/年と推定され、後継者の酪農に対する自信に繋げることができました。

【今後の展望】

農家毎に問題点を洗い出し、課題を明確化し、チームで指導することにより効率的に成果を出すことができます。後継者がいる農家では、特に、給水管やウォーターカップの修繕、換気扇増設などによる暑熱対策など、牛舎の構造設備について計画的に改善することで、より効果的に牛群の成績をあげることができます。

また、設備に投資するとともに、泌乳期毎に牛群の状態をよく観察し、治療よりも予防重視の乳房炎対策を徹底することで、投資に見合った乳牛のベストパフォーマンス（乳量増加、長命連産など）を発揮させることができます。後継者がいる農家だけでなく、中堅・ベテラン農家についても、厳しい酪農情勢下で頑張っている方々の経営が少しでも良くなるよう、今後も淡路乳質改善協議会のメンバーが支援しますので、いつでも気軽に相談してください。（図8）

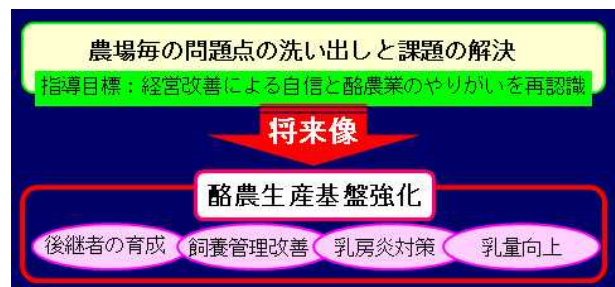


図8 酪農指導による未来予想図